

北小つ子「じとばの時間」【二月】

二月の暗唱課題は、「竹取物語」です。日本で最も古い物語といわれ、今から千百年ほど前に作られました。竹から生まれた小さな女の子が、美しいひめに成長し、やがて月に帰っていく「かぐやひめ」の物語として知られているお話です。読み方が今とは少しちがいますが、英語と同じようにリズムよく読んで練習すると覚えやすいです。

「竹取物語」

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきの造となむいひける。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。



【意味】
今から見れば昔のことですが、竹取の翁という人がいました。野や山に入つて竹を取つては、さまざまなことに使つていました。名前をさぬきの造といいました。その竹の中に、根もとに光る竹が一本ありました。不思議に思つて近づいてみると、筒の中が光っていました。その中を見ると、三寸（約十センチメートル）ほどの人が、とてもかわいらしいすがたですわっていました。